



学校だより

9月号

横浜市立東本郷小学校

令和4年8月31日

人にやさしくありがとうの心で がんばるがんばる最後まで 本気で取り組むひかほんの子

過去に学び、未来を創る

副校長 田島 馨

明日は9月1日。「防災の日」です。全国各地で、災害を想定した防災訓練や防災意識を高める防災イベントが行われます。本校でも、校内で「総合防災訓練」を行い、発災時の対応を学び、防災意識の向上を図ります。9月1日が「防災の日」に制定された理由の一つが、今から99年前の1923年9月1日に発生した関東大震災です。相模湾を震源としたマグニチュード7.9の大地震によって、ここ横浜でも、建物の倒壊や大規模な火災によって甚大な被害が出ました。その反省をもとに、災害に強いまちづくりが行われてきています。

学校では、毎月のように避難訓練を行っています。これは、過去の災害の事例をもとに、さまざまな危険から自分や仲間の身を守る方法を身に付け、いざというときに命を守ることができるようにするためです。

2011年3月11日に発生した東日本大震災では、地震の後、大きな津波が発生しました。特に東北地方では、校舎の高さをも超える津波が押し寄せ、不幸にも多くの命を奪うことになってしまいました。そうした中でも、岩手県釜石市の小中学生がいち早く高台に避難し、命を守ったことが大きく伝えられました。これは、学校で繰り返し行っていた避難訓練や防災教育の成果があると言われてしています。また、三陸地方には『いのちてんでんこ』という言い伝えがあります。「津波が来たら、家族がてんでバラバラでもとにかく逃げろ」という教訓です。これは、三陸地方が過去に何度も大津波を経験し、津波の怖さを地域の人々が共有していることを示しています。過去の教訓に学び、生かしたことで、多くの命が救われることにつながったのだと思います。

今年は終戦から77年。8月15日の終戦の日前後には、さまざまなメディアで第二次世界大戦に関連する特集が組まれていました。その中で印象深かったのは、「無言館」という美術館に関するものです。この「無言館」には、第二次世界大戦で没した画学生の作品が展示されています。絵を学んでいた学生が志半ばにして出征し、遺作となってしまった作品が600点余りも収蔵されているとのこと。展示されている絵画は何も語らず「無言」ではありますが、作品からは、描き続けることができずに命を落としてしまった画学生たちの、無念の気持ちが伝わってくるような気がしてなりません。

世界では今も戦争が行われ、たくさんの命が失われています。また、災害や感染症、貧困から失われる命があるのも現実です。今こそ過去の教訓から解を見出し、少しでも良い方向に世界が向かうように努力し続けていくことが必要なのではないのでしょうか。これからの未来を担う子どもたちが、過去から学び、主体的に未来を創り出すことができるようになることを目指して、日々の教育活動に取り組んでいきます。